現代の国語　単元指導計画

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日時 | 令和〇年〇月〇日（〇） | 場所 | □□□□ |
| クラス | △△△　（△△人） | 授業者 | ◇◇◇◇ |
| 科目名 | 現代の国語 | 単元名 | 「伝わる文章」を書こう |
| 使用教材 | 「水の東西」（山崎　正和） | 使用教科書 | ▽▽▽▽▽ |
| 教材観 | 本教材は、「評論（論説）」分野の定番教材として、長年教科書に掲載されている。「鹿おどし」と「噴水」という「水」に関係する事物を例として、日本文化と西洋文化を二項対立で論じ、日本人の感性と日本の文化の特質を述べた文化論である。「鹿おどし」「噴水」という具体的な「水」に関係する事物から、「文化論」という抽象的なものへの展開、論を進める過程で用いられている二項対立等、評論文の基礎を学習する上で重要な教材である。評論文を読むことでさまざまな視点、思考があることに気付き、中学校の説明的な文章からの発展につなげたい。 |
| 生徒観 | 入学後間もないため、落ち着いて授業に参加している。一方で、人間関係形成期のため授業内で反応する場合を、周囲の様子を観察しながら行っている。自信のある生徒も、自信のない生徒も自身の考えを述べにくい状況であるため、交流の時間を適切に設定しながら学習を行っていく。 |
| 指導観 | 本単元では、中学校までの「説明的な文章」から「評論文（論説文）」への接続を意識し授業を行う。語彙、構成等、新出の知識も多いため、何を学ぶかについては、生徒の反応をみながら対応したい。また、生徒が本文の読解に注力しすぎ、「説明的な文章」と「評論文」では、どのような違いがあるか考えながら読むことを忘れないよう留意したい。言語活動として、授業内で学んだ知識・技能を活用して「説明的な文章」と「評論文」の違いを「伝わる文章」というテーマで書くことによって、今後、生徒が「評論文」を読む際の基礎にするとともに、生徒の現在地を教員が把握する機会としたい。 |

１　単元の目標

1. 実社会において理解したり表現したりするための必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔知識及び技能〕(1)エ
2. 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構成や展開を工夫す

ることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔思考力，判断力，表現力〕B(1)イ

(３) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　「学びに向かう力、人間性等」

２　単元の言語活動

本単元の教材で学んだ内容を基に、「説明的な文章」と「評論文（論説文）」の違いについて比較しながら、相手に「伝わる文章」を論述する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（関連：〔思考力，判断力，表現力〕B(1)イ）

３　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1. 実社会において理解したり表現したりするための必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。

　　　　　　((1)エ) | 1. 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。

　　　　　　　　　　　(B(1)イ) | 1. レポートを書くことを通して、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。
 |

４　指導と評価の計画（全５時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 次 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
| １（本時） | ・単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。＊授業の始まりシートを記載する。・中学校での「説明的な文章」について確認する。〇段落分けをし、本文の構成を理解する。 | 〔知識・技能〕① | 「記述の点検」 |
| ２ | ・第1、２段落の読解。 | 〔知識・技能〕① | 「記述の分析」 |
| ３ | ・第３、４段落の読解。 | 〔知識・技能〕① | 「記述の分析」 |
| ４ | ・教材のまとめをし、筆者の考えを確認する。〇「説明的な文章」と「評論文」の違いについて、論述する。〇他者の論述を確認し、自身の論述の参考とする。 | 〔思考・判断・表現〕① | 「記述の分析」 |
| ５ | 〇レポートの清書を行う。・振り返りシートを通して、「説明的な文章」と「評論文（論説文）」の違いを書くにあたり自身がどのように学びを調整したか省察する。 | 〔主体的に学習に取り組む態度〕①〔思考・判断・表現〕① | 「記述の分析」 |

【単元の流れ】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
| １（本時） | 〇単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。・中学校で学んだ「説明的な文章」について確認する。・ワークシートに取り組み、本文を一読し、重要語句等の確認を行う。 | ・本文を学んだ後に、レポートを書くこと、「説明的な文章」と「評論文」の違いをテーマにすることを意識付けする。・ペア活動で答えを確認し、なぜそうなったかを説明させる・ | 〔知識・技能〕①「記述の点検」授業プリント・本文の記述の順番が正しく整理され、なぜそうなったかペアで確認した際の記述があるか点検する。 |
| 2 | ・第1、２段落の読解。 | ・第１、２段落の読み取りを行い、「二項対立」の構成について理解させる。・「二項対立」で例示されている内容が西洋と日本の文化に通じることを理解させる。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」ノート・記載内容を点検する。 |
| 3 | ・第３、４段落の読解。 | ・第３、４段落の読み取りを行い、「鹿おどし」「噴水」の比較を通して、筆者が何を述べているのかに注目させる。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」ノート・記載内容を点検する。 |
| ４ | ・本文のまとめを行い、本文の構成、筆者の考えを理解する。○「説明的な文章」と「評論文（論説文）」の違いについて、「相手に伝わるように」レポートを書く。・他者の論述を読み、「相手に伝わる」書き方を考察する。 | ・西洋と日本を比較し、日本文化、日本人について筆者の考えを述べている構成を理解させる。・書くのが苦手な生徒には、レポートの例に沿って書くように助言する。・進捗状況によってペアでの確認や回し読みを行い、書く内容を確認させる。 | 〔思考・判断・表現〕①「記述の分析」レポート・本文を通して学んだ構成、知識を用いた内容になっているか、レポートを分析する。 |
| ５ | 〇レポートの清書を行い、グループで伝わりやすさを評価する。・振り返りシートを記入し、自身の学びを省察する。 | ・相手に伝わるよう、他者の書き方を参考に表現するよう助言する。・評価の項目を記入する際に、授業の振り返りをしながら、客観的に自己評価することを促す。 | 〔思考・判断・表現〕①「記述の分析」レポート・本文を通して学んだ構成、知識を用いた内容になっているか、レポートを分析する。〔主体的に学習に取り組む態度〕①〔思考・判断・表現〕①「記述の分析」振り返りシート・振り返りシートの内容から、自身の学習を調整しながら相手に伝わるように、説明の仕方や表現の仕方を工夫できたか分析する。 |

≪本授業における評価の実際≫

５　観点別学習状況の評価の進め方

　共通必履修科目「現代の国語」の「内容」の〔思考力・判断力・表現力〕「B書くこと」に関する指導については、「内容の取扱い」(1)イに「30～40単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「B書くこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1)［知識・技能］の評価

[知識・技能]①の「実社会において理解したり表現したりするための必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている」状況を、「新出語彙や、わからない単語等を自ら確認し、二項対立の構成を理解したうえで、筆者の主張を正しく読み取っている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ノートへの記述を中心に、レポート等も点検して評価する。

本文の読み取りができていない状況をCと捉え、個別に声をかけて、ヒントとなる本文の記述を示す、語句の意味を隣同士共有するなどし、読み取りを行うよう促す。

(2)［思考・判断・表現］の評価

[思考力・判断力・表現力]①の「『書くこと』において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができている」状況を、レポートの清書において、他者に伝わりやすい文章作りを意識し、「説明的な文章」と「評論文（論説文）」の違いについて、本文で学んだ知識を活用し論述している」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、レポートの記述を分析し評価する。

レポートを自分の言葉で書くことができない状況をCと捉え、例示に沿って書くよう促す。

(3)［主体的に学習に取り組む態度］の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「レポートを書くことを通して、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「読解を通して理解した知識や技能を活用して論述している」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、振り返りシートの記述、自己評価を分析し評価する。

本単元を基にした気づきや学びがまとめられず、努力を要すると判断する状況をCと捉え、振り返りシートの評価項目を参考に、単元を通して気づきや学びがどこかにないか探るよう促す。

６　学習指導案(１時間目/全５時間)

本時の目標：ア．実社会において理解したり表現したりするための必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる　　　　　　　　　　　　　　　　　【思考・判断・表現】

言語活動：ペアワークで構成の確認をする

本時の展開：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
| 導入５分 | □中学校で学んだ文章を複数提示しジャンルについて確認する。 | ・例示される説明的な文章を確認し、ジャンルを理解する。 | ・隣同士で確認させる。 |
| 展開①１５分 | □「水の東西」のジャンルについて紹介する。□単元の目標を確認する。 | ・「評論文（論説文）」という語を紹介する。・「伝わりやすい文章」を書くことが単元の目標であること、授業の最後に「説明的な文章」と「評論文」の違いについてレポートを書くことを伝える。・ワークシートに「説明的な文章」と「評論文」の違いについて現在の考えを記入する。 | ・聞いたことがあるかを確認し、生徒の理解度を把握する。・箇条書きで思いつくまま書いてよいと助言する。 |
| 展開②２５分 | ◎本文の順番を整理する。□ペアで交流する。 | ・ワークシートを用い、ばらばらの文章の順番を考え記入する。・文章を読みながら、意味の分からない語や、読めない漢字のチェックを行う。・ペアでなぜその順番にしたかを交流し、文章の構成について理解を深める。 | 【目標アに対する評価規準と評価方法】規準：仲間の意見をディベートの流れに沿って自分の言葉でまとめることができている。方法：「記述の分析」（ワークシート、フローシート、机間指導）〔目標ア達成のための手立て〕・ワークシート内にあるディベートメモの枠に沿って、一言でもメモを取ることを促す。 |
| まとめ５分 | □次回の予告 | ・「相手に伝わる文章」を書くために、「水の東西」の読解を行うことを確認する。 | ・必要に応じて、読めない漢字や意味の分からない語の予習を行うよう指示する。 |